



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-27

(2025.6.5)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

信用金庫統計担当：西 俊樹

03-5202-7672

s1000790@FacetoFace.ne.jp

インターネット専門銀行の預金動向

ー2025年3月末の預金残高の合計は38.2兆円ー

ポイント

- インターネット専門銀行(以下「ネット銀行」という。)9行合計の2025年3月末の預金残高(除く譲渡性預金)の合計は38.2兆円となった。10年前の11.4兆円から3倍以上の規模に拡大している。また、9行合計における前年度末比の預金増加率は8.2%となる。
- 主要ネット銀行の口座数は、各行とも増加傾向にあり、中でも楽天銀行の口座数が大きく増加している。
- 2024年度末における預金に占める定期預金の割合は、ネット銀行間でバラツキがみられるが、強固なポイント経済圏を有する楽天銀行やPayPay銀行では、他行と異なり定期預金比率は低い。

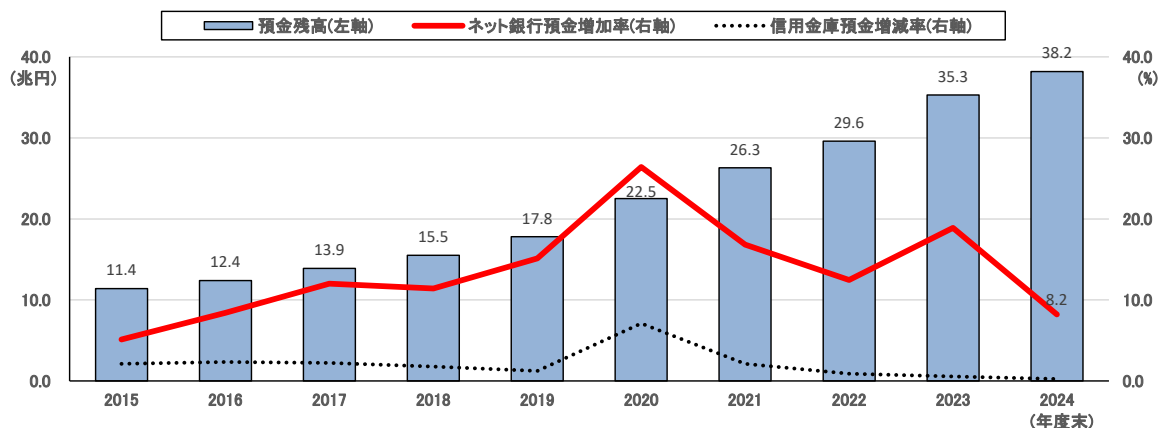
1. 2025年3月末のネット銀行における預金残高

本稿では、ネット銀行の預金動向を確認する。金融庁の分類における新たな形態の銀行のうち、商業施設との連携を主体とする銀行(コンビニ等の店舗網にATMを設置し、主に決済サービスの提供を行う銀行：イオン銀行、セブン銀行、ローソン銀行)は対象外としている。

2025年3月末のネット銀行9行の預金残高(除く譲渡性預金)の合計は、38.2兆円となった(図表1)。10年前の11.4兆円から3倍超の規模に拡大している。このうち、最大手の楽天銀行は11.4兆円、住信SBIネット銀行は9.8兆円と大手地域銀行並みに達している。

また、9行合計における前年度末比の預金増加率は8.2%となる。過去10年間におけるネット銀行と信用金庫の預金増加率を比較すると、ネット銀行の方が一貫して高い伸びを示している。

(図表1) ネット銀行における預金残高と前年度末比増加率



(備考) 各行のディスクロージャー資料等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

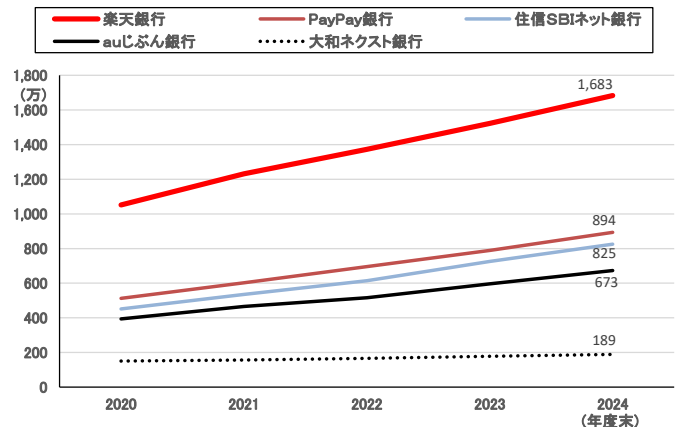
2. 主要ネット銀行の口座数の推移

次に、過去5年間ににおける主要ネット銀行の口座数の推移を示す(図表2)。

各行とも増加傾向にあり、中でも楽天銀行の口座数が大きく増加している。

インターネットの利用拡大やコロナ禍を契機とした非対面サービスのニーズの高まりなどを要因に、今後も増加が見込まれる。

(図表2) 主要ネット銀行の口座数の推移



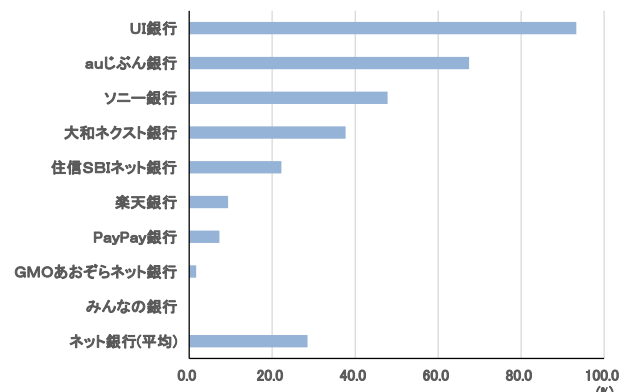
(備考) 各行のディスクロージャー資料等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

3. ネット銀行の定期預金比率

2024 年度末における預金に占める定期預金の比率を示す(図表3)。

ネット銀行間でバラツキがみられるが、楽天銀行や PayPay 銀行は、強固なポイント経済圏を確立しており、サービスや商流の中で預金が集まる仕組みがあることから、他行と異なり定期預金の比率は低くなっている。

(図表3) 預金に占める定期預金の比率(2024 年度末)



(備考) 各行のディスクロージャー資料等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

インターネット専門銀行の強みとして、低コスト運営による高金利・低手数料、手続きの迅速さなどが挙げられる。特に、スマートフォンやインターネットを活用したサービスは多くの顧客にとって魅力的であり、効率的に顧客ニーズに合ったサービスを提供できる点が強みとなる。また、ポイント経済圏内の金融機能を担うことで取引拡大につながっている。

今後、三菱 UFJ フィナンシャル・グループがインターネット専門の新銀行を設立する予定である。また、NTT ドコモが住信 SBI ネット銀行を連結子会社化すると発表するなど、インターネット専門銀行の更なる多様化や成長が見込まれよう。

インターネット専門銀行と信用金庫はビジネスモデルが大きく異なるが、預金先として、強力な競合相手であることを踏まえて、競争戦略を明確化する必要があるだろう。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。